

各位様

2013年1月7日：サイゼリア神保町にて午後5時より理念哲学部会の新年会が開催されました。



出席者は、佐藤、山本、古山、長塚、宇佐神の5名

山本氏より、辻井氏が理哲部会に関心ありとのこと。どなたかメールアドレスをご存じでしたらお教えてください。連絡を取ってみたいと存じます。

以下の報告は、出席者のあいだで話あわれた内容の一部である。

(1) 経営とは何かを話し合い、それが人間のすべての活動に関連することを確認した。従って、経営とアドミニストレーションは異なるものであり、経営は人格存在に必然的な全人格的行為であり、人は本来的に経営者であり、それが特定の領域における管理行為に特化したものが生命倫理、環境倫理、企業倫理として展開されていることになる。従って、これらは個別領域における経営管理上の規範であり、人間が地を治めるよう信託されたことの延長上にある21世紀的課題と関連がある(創世記1章27節)。

(2) 稲垣氏の「キリスト教は一神教か」をめぐって

日本の造化の三神(天御中主神、高皇産靈神、神むすびの神)とキリスト教の三位一体との関連性、ともに創造の最初から関わった。いずれにせよ、日本でよく見られる、キリスト教を一神教とする乱暴な見解に対しては批判的な結論がみちびきだされた。

これとも関連して、最後の素粒子である第17番目のヒッグス粒子について話が及び、学士会報の記事を手引きに、創世記一章の創造記述との関連で、追求された。

(3) ヒッグス粒子について

【口語訳】創 1:1 はじめに神は天と地とを創造された。1:2 地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた。

今日、宇宙における質量を持つ物質が5%に満たないことが明らかになっており、宇宙の95%がダークマターとダークエネルギーだとするのが宇宙物理学における今日的観察結果である。昨年発見された17番目の素粒子ヒッグス粒子は、素粒子に質量を与えるものであり、最もふさわしく、これにあたると思われる。それは、「淵のおもてをおおっていた「やみ」に対

応していると思われる。それに対して、淵の中なる水はビッグバンを通して、16種の素粒子となり、光子を除いて、他はヒッグス粒子につかまった場合、質量を持ち、星や天体へと展開していった。これらは、さらに、超新星爆発を通して、元素を生み出し、原子、分子となり、それらが地球において、ついには命を生み出し、人間を産みだすに至った。これらは、今日の宇宙物理学における人間原理という考え方と非常に近い関係にあるといえよう。

これらを踏まえ、学会報のヒッグス粒子、キリスト教は一神教か、他の資料のpdfを送ることを約束した。これらは関係者に送付済み。

(4) 佐藤氏より、先日なくなった、日本国憲法の作成に関与されたベアテ・シロタ・ゴードン氏関連の資料が朝日新聞とウィキペディアの資料をもとに提供された。これと関連して、長塚氏の研究内容への言及があり、上記学会報の「戦争・軍隊史研究の現状」への関心が示された。

おおよそ、以上実りある話し合いがなされ、7時半に散会した。

宇佐神